

第 25 回 京都市西京まちづくり区民会議
摘 録

日 時 令和元年 9 月 6 日（金） 午前 10 時～正午

場 所 西京区役所 2 階 大会議室

出席者（敬称略）五十音順

- ・ 井上 学 立命館大学アート・リサーチセンター客員協力研究員
- ・ 上田 清和 西京区体育振興会連合会総務
- ・ 小倉 美和 京都信用金庫東桂支店支店長
- ・ 片山 千恵子 西京区社会福祉協議会理事
- ・ 河原 裕 嵐山東学区自治連合会会長
- ・ 小石 敦子 西京区民生児童委員会副会長
- ・ 小石 玖三主 西京区自治連合会会長
- ・ 白須 正 龍谷大学政策学部教授
- ・ 鈴木 千鶴 区民公募
- ・ 宅間 保 西京保健協議会連合会副会長
- ・ 東條 すえ子 西京少年補導委員会企画副部長
- ・ 永谷 文隆 大原野地域自治連合会会長
- ・ 深川 光耀 花園大学社会福祉学部専任講師
- ・ 藤本 英子 京都市立芸術大学美術学部教授
- ・ 宮崎 秀夫 西京区長
- ・ 安田 桂子 西京区地域女性連合会会長
- ・ 安田 淳司 西京区洛西担当区長

1 開会

樹下室長

本日は、次期西京区基本計画の策定に向けて、現行計画の将来の姿、まちづくりの方向性、取り組み分野について、新しい要素や修正意見などを御議論いただきたい。本日はいただいた御意見をとりまとめ、次回の会議で次期基本計画の骨子案として提示し、さらに皆さまから御意見をいただきたいと考えている。

石井係長

（配布資料確認）

樹下室長

本日は委員改選後の初の会議であるため、委員の自己紹介をお願いしたい。なお、山本委員、吉田委員からは、都合により欠席する旨の御連絡をいただいている。

（出席者自己紹介）

樹下室長

「京都市西京まちづくり区民会議の開催等に関する要綱」第4条第2項の規程に基づき、議長には西京区長から小石委員を、副議長には小石議長から藤本委員に指名があり、お二人ともに御快諾をいただき、再任となったことを御報告する。それでは、小石議長より御挨拶をいただきたい。

小石議長

再び議長という大任を拝することになった。藤本副議長とともに頑張っていきたい。この区民会議は、さまざまな会議の意見を集約し、いままでの基本計画、これからの基本計画、その他をしっかりとしたかたちで次の時代へとバトンタッチしていくための、要となる会議だと考えている。皆さまの御協力とともに、西京のまちづくりに貢献していきたい。今後とも、御指導、御鞭撻のほどをお願い申し上げる。

樹下室長

これより議事に入る。この先の進行は、小石議長にお願いする。

2 次期西京区基本計画の策定に向けた取組について

(1) 西京区基本計画について

和田課長

(資料1説明)

(2) 次期西京区基本計画策定基本方針(案)

和田課長

(資料2説明)

(3) 西京区基本計画に係る実感度アンケート結果報告(速報値)

地域計画建築研究所

(資料3説明)

白須委員

アンケートの分析を見ると、前回の調査と同じく20代以下の回答者が2・3%と非常に少ない。これからの地域のことを考えると、高校生なども含めて、若い人たちの意見を入れることが大事である。地域の現実の問題や課題に対する設問に、10代や20代の方がうまく答えることは難しいかもしれない。アンケートがおかしいというわけではないが、次の機会があれば、若い人の意見を聞くような項目も入れるなどして、20代以下の回答者を増やすような工夫があればよいのではないか。

片山委員

前回の調査と比べて、全ての項目で評価がアップしており、よい評価が50%を超えるも

のが 27 項目中 10 項目あることは、手前みそになってしまうが、皆さま方の努力の成果と
いうか、評価に値するのではないかと思う。また、商工業、交通の部分などが、今後策定す
るに当たっての一番の課題になるだろう。

深川委員

5 番の「地域ぐるみの子育て」と 9 番の「子どもの教育環境」の加重平均の数値が上がっ
ている要因が分かるようであれば、次回以降などに教えてもらいたい。

小石議長

以前は高齢の回答者が多かったように思うが、30 代、40 代の方の回答者が増えており、
少し変わってきたと感じている。ただ、学区ごとにばらつきがあることは気になる。

亀岡市と近隣の問題を私自身もやっているが、見える化が少なく、もっと区民に分かりや
すいかたちで見せていかなければならないと思っている。以前よりは少しずつ進んできて
いる感じはするが、今後とも考えていかなければいけない。

河原委員

私ども連合会は、長年のテーマとして会員離れということがある。その点で、2 番の「自
治会をはじめとする地域コミュニティの力を生かしたまちづくりが進められており」とい
うことで、地域コミュニティとは何かということ、連合会、自治会として根本的に考えて
いく、新たな視点が必要だと実感している。

嫌だから抜けていくということではなく、本当にちょっとしたことがきっかけになっ
ている。自分で何も動かなくても情報を得られる世の中で、至れり尽くせりとまでは言わな
いが、行政の力もかなりきめ細かくなり、どうしても協働が必要なわけでもなく生活のできる
環境に置かれている。あえてみんなで集まって「何かしなくてはいけない」ということを排
除していき、SNS などによってつながっている気分になることができるので、地域コミュ
ニティが煩わしくなる、それよりも自分のやりたいことをやっていたいという風潮がある
ように思う。

単に災害対応だけではなくて、一緒に暮らさせてもらっているという実感を、どういうか
たちで地域それぞれが語り掛けていくのかを考えさせられる。数値的に上がっていること
は、ある程度ほっとするが、この深刻化はますます広がっていくことも実感しているので、
答えを探していきたい。

宮崎委員

深川委員より御質問があった点に、区長として思うことを言わせていただく。西京区は、
各自治連合会、各種団体が熱心に学区ごとの取り組みをしている。その結果、40 代の回
答者が増えているということは、まさに子育て世代の実感を反映できたと思っている。私見も
含まれるが、一生懸命に取り組みをされた結果と評価をする世代がマッチしたことが、加重
平均の数値上昇につながったのではないかと。

鈴木委員

私は樫原で宿場町の地域活動をしているが、参勤交代では、樫原の宿場町を過ぎると、次

は伏見の宿場町に向かった。21 番について、亀岡市の隣だが、宿場町つながりで、西京区と伏見区、その途中の乙訓などをつなげられないかという話があったので、実現できればと考えている。

藤本副議長

20 代の回答者を増やすには、違うやり方をしなければいけないと思う。家庭でアンケートということになると、お父さんとお母さんは高齢でもないし子どもでもないの、誰をターゲットにするかという工夫が必要である。

小石議長

ほかに御意見がなければ、次の議題に入る。

(4) 西京区基本計画の取組状況

地域計画建築研究所

(資料4「人と人が支え合う区民が主役のまちづくり」説明)

小石議長

8050 問題は、これから本当に大きな問題になっていく。50 歳まで引きこもって、親が亡くなった後始末もできず、そのうちに収入のない自分も生活ができなくなり、餓死して亡くなっている。周りの人もつながりがなく、気が付くことができないという深刻な状況である。若い人の引きこもりの時点から対処していかなければ、これからますます増えてくると思われる。障害者の問題も含めて対応を検討していきたい。

小石(敦) 委員

私は樫原で民生委員をしており、毎年いただく見守り名簿に新しく入った、70 歳以上の方がどのようにお住まいなのかを調査して歩いている。お一人なら私たちも関わる必要があると思い、アパートにお住まいの 80 歳を超えた方を調査に伺ったところ、息子と一緒に暮らしていると言われる方に今年も何軒か出くわし、8050 問題が増えていることを実感した。

子育てについては、支所の「たけっこぐんぐんプロジェクト」では、いろいろな方が協力し合って子育てを応援している。本所でも「子育て支援連絡会」が全学区で立ち上がり、小学校、中学校、幼稚園、保育園、児童福祉施設が集まって連絡会を開き、お互いに困っていることの共有、助け合いをしている。さまざまな事業を起こし、顔つなぎをして仲良くなるような関係も出来上がりつつあり、先ほどのアンケートでも子育て環境がよくなっていることを実感している。

広報誌『GoGo 土曜塾』によれば、京都の歴史や地域のことに関心を持っている小学 6 年生と中学 1 年生から任命される「ジュニア京都観光大使」は、12 人のうち 4 人もが西京区の小学校出身とのことである。小学校の教育の在り方などの要因が考えられるが、西京区はすごいと感心をした。

深川委員

川岡東学区の「ひまわり食堂」という子ども食堂は、京都、滋賀、遠くは大阪から、20代から30代のNPOの方が地区外から来られており、学区社協が自治会館を提供し、民生委員の協力も得ている。地域の資源を提供しつつ、若いNPOの方たちが担い手となって連携する取り組みは、非常に参考になる事例である。

洛西ニュータウンに関わっていたときに思ったことは、小さな子どもと高齢者の方はさまざまな団体がサポートをしているが、中学生が少し穴になっているのではないか。例えば共働き世帯だと、帰宅まで時間が余ってしまい、商業施設ラクセーヌのフードコートで勉強や対戦ゲームをして時間をつぶしている。19時、20時まで、そうやって過ごしているということがあるので、ニュータウンの中での居場所づくりもサポートの視野に入れていきたい。

小石議長

川岡東の学区社協は、自治連合会のカバー範囲が一緒になっていて、いい状態にあるように思う。亡くなられた学区社協会長の後を引き継いだ方も熱心に頑張っており、素地が徐々に生まれてきていることを喜んでいる。川岡東は、以前と比べると放置自転車が減っており、自転車盗も減ってきている。

地域計画建築研究所

(資料4「高齢者福祉～商工業」説明)

小石議長

最近、大学も地域とのつながりをつくろうと頑張っているが、イノベーションパークとつながることが難しい。極端に言えば、国際日本文化研究センターでも行く人は行っているが、西京区とどれだけつながっているのかは、なんとも言えない状況にある。難しいからといって、放っておいては駄目になるので、今後も考えていく必要がある。

小石（敦）委員

国際日本文化研究センターの事業は自治会で回覧されているが、地域の者がどれだけ参加していくのかも大きな問題だと思う。

数年前、京都経済短期大学の新年の集まりで御一緒した女性の理事長に、若い方に民生委員活動を知ってもらいたいというお話をしたところ、向こうから即連絡があり、授業の中に取り入れてもらうことになった。若い学生たちからは、全然知らなかったという御意見もいただいた。それが1回きりで終わってしまっており、もうちょっと続いていけばいいと思っているので、また何かアクションを起こしてもらいたい。

小石議長

京都経済短期大学は、私や鈴木委員も講義をしたことがあるが、地域へ出て行こうとしている取り組みが目立つように思う。京都市立芸術大学も一時は熱心で、京都大学大学院の方にも、水素の実験を通して子どもたちがエネルギーのことを学ぶ環境教室に取り組んでもらっており、さまざまなかたちでチャレンジをしてもらっていることは事実だと思う。以前

は、そういうことはまったくなかったに近かったが、いまはどんどんつながりができている。

藤本副議長

ほかの分野と比べて商工業の書き方があまりにも小さい。「らくさいマルシェ」など新しい取り組みのことは取り上げられているが、日常的に利用されている地区センターなどに関しても課題が多くあるはずなので、ここに書き込まれた方がいいように思う。

白須委員

過去にイノベーションパークの誘致を担当していた。確かにとつつきにくい面はあると思うが、横の企業だと、ファーマフーズはラジオで膝の軟骨のすり減りを防ぐようなことも説明されているし、三洋化成も相当進んだ研究をしているが、希望があれば区民の方に見せてくれることも考えてもらえると思う。イノベーションパークの場合は、どうしても京都大学とセットの話になってくる。京都大学に話をさせていただく以外にも、京都市から高度技術研究所を通じて多くのコーディネーターを置いているので、うまく活用していただきたい。

企業の方も、先端研究については秘密の部分があるだろうが、多くの場合は、地域の皆さんに知ってほしいと考えている。大学や研究機関の仕事は、研究、教育とともに、地域貢献ということが非常に大きくなっている。実際にどのくらいされているかは別にして、事業所に積極的に働き掛けていってほしい。いまはオープンで、地域の皆さんに分かるようなかたちのもを見せるように、さまざまなかたちで努力してくれると思う。

鈴木委員

いま、大学で起業クラブが流行している。京都大学には賢い学生たちがいるのだから、空き店舗やシャッター街の店舗を活用して、机の上の勉強だけではなく、実際に起業できるようなことを行政からも提案できれば、双方つながっていくのではないかな。中小企業家としては、大学生だけの話ではなく、高校生、中学校、小学生も、アントレプレナーとして起業意識を育てることが今後の教育で必要になってくると感じている。小学生が樫原の企業で職場体験ができるということを、実現しようとしている。地域で子どもの職業意識を育て、地域の子どもが地域の中小企業を知ること、またそこに勤めるという、SDGs、地域雇用につながるのではないかと提案したい。

京都経済短期大学で、地域起業論というタイトルで講演をしたほか、文化祭へも出店する予定である。福祉保育専門学校でも、文化祭を地域と一緒にしたいという御意見を持っておられるので、今後の課題と思っている。

宮崎委員

桂イノベーションパーク、京大桂ベンチャープラザ、国際日本文化研究センター等については、安田区長と一緒に4月に御挨拶に伺った際には、地域連携をお考えのようだった。いままでそれぞれの接点がなかったことから、具体的にどうしていくかは決まっていない。企業と京都大学とイノベーションパークで連絡会議を3カ月に1回開いており、そこに私もメンバーとして加わり、これからお互いの意見を交換しながら、どう地域と連携していくかということも聞かせてもらいたい。国際日本文化研究センターでも同様に、地域で公開授業をされたということもお話ししていた。西京区の中でもっと親しんでもらえるような

研究機関になってほしいという思いを持っているので、引き続きやっていきたい。

安田（淳）委員

国際日本文化研究センターは桂坂エリアでは学校で授業をされたこともある。区長と一緒に伺ったときに、妖怪の権威である小松和彦先生との雑談の中から生まれたものが、洛西で行われた「妖怪大行進」という事業である。

京大桂ベンチャープラザは、大原野で農場を借りて新しい展開をしている。大原野に工場は建たないが、農地であれば活動もできる。新たな雇用につながるような展開も今後は増えると思うので、さらに強化していきたい。

小石議長

働く場所がなければ、住民の定着は本当に難しい。これからは、住むだけの区では難しい時代だと感じている。いままではあまり大きく取り上げられなかったが、大きな企業だけではなく、勤める場所の創出を重点的に考えていく必要があるのではないかな。

事務局

（資料４「環境と共生するまちづくり～人と歴史・文化が輝くまちづくり」説明）

小石議長

一戸建ての空き家の問題については、いまは少ないように見えるが、駅を中心にかなり増えてきている。御両親と共に生活されていない場合、御両親が亡くなってしまうと、そのまま空き家になってしまうパターンが、今後はさらに深刻化してくると考えられる。

亀岡市と向日市は都市間の交流をしているが、右京区と西京区のつながりもつukれないかを検討したい。両区が連携することで、観光的な面でも川を越えて一つの流れが生まれてくるのではないかな。

上田委員

スポーツについては、右京区と西京区は京都市の中でもずばぬけて熱心な地域である。年１回、西京極総合運動公園で小学生も含めた京都市のスポーツ大会が行われるが、これも十数年間、右京区と西京区が優勝と２位で続いている。

亀岡市とはグラウンドゴルフやソフトバレーボール等で交流を重ねており、今度の１０月に亀岡市で行われる大会に西京から８０名ほどが参加する予定で、スポーツによる都市間交流も盛んである。

現在、嵐山は観光ブームだが、嵐山や西京区に来る観光バスのほとんどが大原野インターで出入りをしていると聞いている。個人的にも旅行の手配をする機会があるが、買い物の場所、バスの止まる場所、トイレの場所など、考えることが多い。すぐには無理だが、このルートに人が集まる商業施設等を考えていきたい。

もちろん教育も大事だが、住みたいと思うには、魅力ある商業と働く場所があることが基本である。西京区の数字を見ると、１５歳未満の人数は多いようだが、中間層があまり多くないように思う。独立して離れる、空き家になるということは、中間層が西京区から離れているということでもあるので、その原因を広い分野で確かめていきたい。

小石議長

大原野と沓掛のインターは、ここ5年で大きく変わろうとしている。一つの通過点になってしまっただけは困るので、そこで楽しんでもらえるようにしたい。素晴らしい自然環境をつぶさないようにしながら、うまく取り組んでいただきたい。

井上委員

「歩くまち・京都」の推進のところで、西京区は、福西学区がモビリティ・マネジメントを進めているが、地域にいまあるものを生かして、ほかの学区でも取り組めば公共交通は維持され则认为られる。例えば右京区の南太秦学区が熱心にモビリティ・マネジメントに取り組んだ結果、西京区内のお客さんも増えてきている。これから5年先を考えると、近隣の商店街がなくなる地域が増え、買い物難民が発生する可能性が高いと思われるが、公共交通で買い物にすぐに行けるネットワークが充実していれば、なんとかなるのではないかな。

ランキングでは、西京区に観光客が来ていないように見えるが、実際のところはいいい感じ、ぼちぼちと来られている。善峯寺は外国人観光客が多く、旧山陰街道も街道沿いのお店がにぎわっている。西京区の場合、一気に観光客の人を呼ぶよりは、地道にじわりとファンを増やしていった方が、京都市の中でもっと値打ちが出てくる地域になると思う。下京区は観光客が増え過ぎて、ちょっと勘弁してもらいたいという感じになっている。増加傾向にある空き家は、おそらく民泊になっていく。民泊が増えれば多くの観光客が来ることになるが、それをチャンスと捉えるのか、迷惑と捉えるのかは、これから5年間、地域の方々と検討していただきたい。

もし観光で人を呼ぼうと思うのなら、嵐山から苔寺まで、上桂も外国人観光客の下車が増えているので、そこから魅力的な場所を回遊してもらうことで、観光客の増加を図れるのではないかな。

小倉委員

仕事柄、京都府下のさまざまな地区で勤務をする経験があるが、各地区に特色があると感じている。西京区では5年以上勤務しているので、客観的にも、中に入って見ることもできるが、印象としては、高齢者ではない生産人口が非常に多く、キャッチフレーズ的には「住みやすいまち」だと思っている。

大学の連携を継続できない原因としては、大学関係者の方が西京区に居住していないことが大きいという印象がある。学生は大学の近所に住むことも十分にあり、この地区は学生が多く歩いている、人通りが多いと思いがちだが、われわれ金融機関のような商業に関わる仕事をしていると、休みの時期になると急に学生がいなくなることも実感している。では、学生の居住を増やせばいいかということだが、学生は通りすがりの部分もあると思うので、大学関係者に住んでもらえるような施策があればいいと思う。

最近、シェアサイクルに関心を持って普及活動をしている。アンケートの24番にもあるように、西京区は公共交通機関が充実していないというイメージがあるが、車や電車だけではなく、エコの観点からも、居住している大学関係者の移動手段としても、自転車がいいのではないかな。シェアリングということがポイントだと思っているので、その辺りを充実させれば、さらに住みやすいまちになる。観光についても、西京区は緑もあり、大学もあり、人

口も多く、阪急電車もしっかり通っているが、組み合わせて不便さも売りにする視点を持てば、すごく面白いまちになると思う。

小石議長

見方一つで変わってくるという、大変いいお話だったと思う。

地域計画建築研究所

(資料4「暮らしやすい都市基盤が整うまちづくり～人口・高齢化の状況」説明)

東條委員

ニュータウンに住んでいるので、買い物について関心があり、少子高齢化も肌で感じている。今日はさまざまな資料の御説明をいただき、このような場に参加させていただいたことをありがたく思う。

安田委員

東條委員と同じく、西京区の課題をあらためて勉強したい。

永谷委員

少子高齢化に伴い若者の農業参画が減っている中で、大原野は、平成26年に「なんやかんや大原野推進協議会」、平成27年に大原野「地域ブランド」戦略を策定し、それを基に地域の活性化や振興に努めている。9月にヒマワリの開花祭り、フジバカマ祭、11月の「風土・food 大原野」というかたちで今後も取り組みを進め、若い方にマルシェ大原野などへの参画も呼び掛けていきたい。

いま大原野地域で一番問題となっているのが獣害で、地域の方も獣害対策に悩んでいる。京都市の農業振興センターでも、電気柵の設置や補助金などで対策をしてもらっているが、それ以上に、シカ、イノシシ、サル、カラスといった多種多様な獣害が増えている。大原野農作業受託組合が稲の刈り入れに取り組んでいるが、収穫期前になって獣に荒らされるなど大きな被害が出ており、来年は稲作をやめようかと悩まれる農家が出るほど厳しい状況にある。今後、行政ともども農業施策に取り組んでいきたい。

井上委員

今回のアンケートでは公共交通のポイントが低いですが、昔、交通局でやった市バス・地下鉄のお客さま満足度調査においては、市バスに対する満足度は西京区が一番高かった。特に洛西は、利用者が減っても本数を維持しているので、混雑なく利用することができる。学区によって状況が異なるので、充実しているところと、そうではないところを整理し、適切な交通体系を考えることが重要である。西京区の中でも、学区によって転入者が増えているところと、そうではないところとの違いがあるが、転入者にバスの路線図や公共交通の案内を配布するなどして利用の促進に努めていくことで、ネットワークが維持されと考えられる。

小石議長

本日予定していた議題は以上となる。本日の議論を反映して、次期計画の骨子案を作成し

たい。進行を事務局へお返しする。

3 閉会

樹下室長

本日は長時間にわたり熱心な御協議、貴重な御意見をいただき、感謝申し上げます。議長からもあったように、委員からの御意見を基に次期計画の骨子案を作成し、次回の会議で提示する。

藤本副議長

本日は、大部の資料について多くの御意見をいただき、継続的に取り組むこと、長所を伸ばすこと、短所を調べることの三つが重要だと感じた。

私に関わる自治連合会の中でも長く自治会の課題があり、コミュニティの在り方が変わってきているのだと思う。水害の多い由良川周辺では、川の整備の前に地域の人たちが顔を合わせて、水が出たら誰が誰を助けに行くということを決めていると伺った。そういうコミュニティの在り方もあれば、水害が少ないこの地域にとっては、また違うコミュニティの在り方がある。新しいコミュニティが生まれているところを、うまく調整していくことが継続につながると思う。

長所を伸ばすという意味では、女性の活躍も多くなり、ニュータウンで職住接近もできていると思っている。いまある、さまざまな活動を広げていくことが重要だ。

モビリティに関しては、解決すべき問題が山積している。私も全国のネットワークでつながって自転車関連の活動をしているが、いままで坂道の多い西京区で自転車は無理だと思っていた。しかし近年、電動アシスト付きシェアサイクルが当たり前になってきたことから、公共交通の一つと捉えている地域もあり、西京区でも活用ができるのではないかな。全国でさまざまなモビリティ・マネジメントの試みがなされているので、新しい情報を収集して次期計画に生かしたい。

アフリカのルワンダは、虐殺などがあって大変な国だが、広いコーヒー農園を女性たちだけで運営しており、女性活躍の進んだ国でもある。知り合いの日本人もシングルマザーを雇って頑張っているが、昨今、女性活躍という言葉が消えていっているように思う。女性だけでないが、人材バランスを取りながら考えていくことも、計画に入れていくべきではないかと新たに思った。

本日は、現場から貴重な御意見をいただき、次期計画が具体的に見えてきたように思う。これからも5年間の次期計画を皆さんと一緒に考えていきたい。

樹下室長

以上をもって「第25回京都市西京まちづくり区民会議」を閉会する。

(終了)